（抄録）

研究課題名：マサイと日本の子どもの身体活動に関する国際比較研究

研究代表者名：城所哲宏

本研究は、マサイ族の子どもを対象に、活動量計を用いて身体活動を客観的に測定し、身体活動の実態を明らかにすることを目的とした。さらに、日本の子どもの身体活動と比較することで、都市化が子どもの身体活動に及ぼす影響について検討することを目的とした。本調査は、マサイ族と日本の子どもを対象とした横断的調査であった。マサイ族の調査に関しては、ケニア・カジアドに住むマサイ族の子ども 120 名を対象に調査を実施した。日本の調査に関しては、長野県・佐久市に住む子ども 89 名を対象に調査を実施した。身体活動および座位活動は活動量計（アクチグラフ）を用い評価した。対象者には、入浴・入水時間を除く起床から就寝までの終日、腰部の斜め前方に加速度計を装着するよう依頼した。その後、専用の解析ソフト（アクチライフ）を用いて、強度別の身体活動（座位活動、低強度身体活動、中高強度身体活動）をそれぞれ算出した。結果、マサイ族と比較し、日本の子どもにおいて、中高強度身体活動が有意に低い値であることが示された。一方、マサイ族と比較し、日本の子どもにおいて、座位時間が有意に短く、低強度身体活動が有意に長いことも示された。これらの結果を踏まえれば、日本の子どもは身体活動量は少ない一方で、座位時間は短い実態が明らかになった。近代化が進んでいる現代社会において、未だに古来的な生活をしている少数民族（マサイ族）の身体活動パターンに関するデータは大変希少であり、本調査結果は、都市化が子どもの身体活動に及ぼす影響を推察するうえで、貴重なエビデンスとなることが期待できる。こうした国際比較研究の結果は、「我々がどのくらい動いていたか」を示唆するデータであり、今後の我が国における身体活動促進の取り組みに活用されることが期待される。